

2014年9月28日

### 御嶽火山 2014年9月噴火(9月27-28日)で降下した火山灰解析

御嶽火山 2014年9月27-28日に降下した火山灰を構成する粒子は、大部分を変質岩片が占め、10%以下の非変質の赤色～橙色岩片及び結晶片からなる(図1)。また極微量ではあるが非変質の灰色岩片及び灰色ガラス片も認められる(図2)。

解析に用いた火山灰は、9月28日午前8時前後に、御嶽火山東山麓標高1450m(剣ヶ峰から東北東6km)の名古屋大学開田高原観測所付近で採取した。粒径は中粒～細粒砂サイズで、最大径0.5mmをもつ。携帯型実体顕微鏡での観察では、火山灰を構成する粒子は、変質岩片が全体の90%以上を占め、そのうち白色を呈するものが40～50%、灰色を呈するものが30～40%である。変質岩片以外では、やや円磨された結晶片、赤色～橙色の酸化岩片、灰色岩片、灰色ガラス片、黄鉄鉱からなる。黄鉄鉱は単体で認められるほか、白色～灰色変質岩片に伴われている。

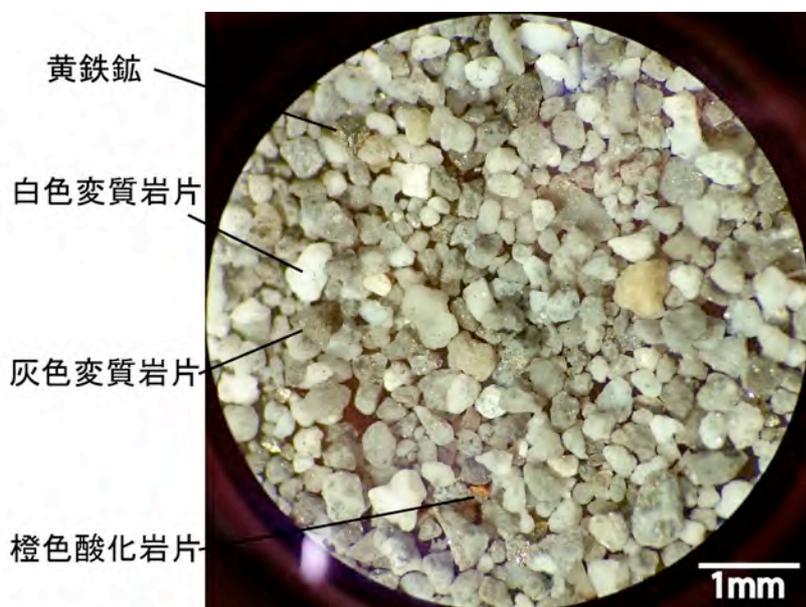


図1 火山灰の実体顕微鏡写真。大部分を変質岩片が占める。

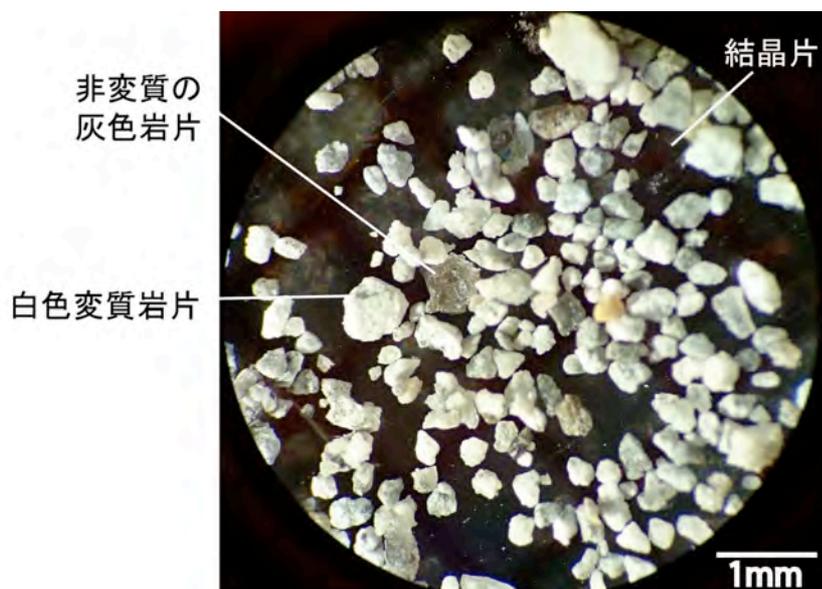


図2 非変質の灰色岩片を含む火山灰粒子。